

わが国の航空機産業のあり方(その1)

平成30年3月19日 産業構造審議会製造産業分科会
三菱重工業(株)取締役会長 大宮 英明

わが国の航空機産業は防衛⇔民間がシナジーを発揮し互いに発展してきた。即ち、防衛と民間はわが国の航空機産業を牽引する車の両輪である。(図1)

- (1) 防衛部門に投入された“先端技術”は、1980年代以降、各社において民間部門を技術的に牽引してきた。(技術波及)
 - (2) 現在、民間部門においては世界的に競争力のある“低コスト量産体制”が確立されている。(安価、安定供給)
これを活用することで、価格競争力を有する防衛航空機 (F-2後継機) の生産及び安定供給が可能である。
 - (3) さらに、F-2後継機が生み出す先端技術が次世代の民間製品に活きる。(技術波及)
- したがって、F-2→Tier1事業 (B777/B787) →F-2後継機→次の民間機事業、と繋いでいくことが重要である。(図2)

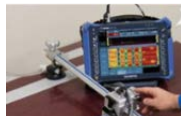
例) F-2複合材主翼



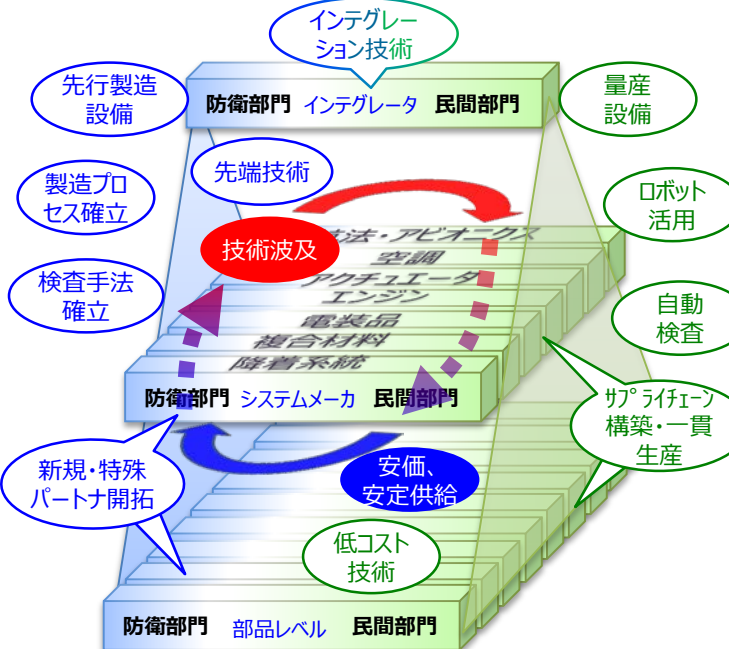
F-2用 オートクレーブ



自動積層機



超音波探傷検査



例) B787複合材主翼



B787用 オートクレーブ



3D積層ロボット



探傷検査ロボット

図1 航空機産業における防衛⇔民間シナジーモデル

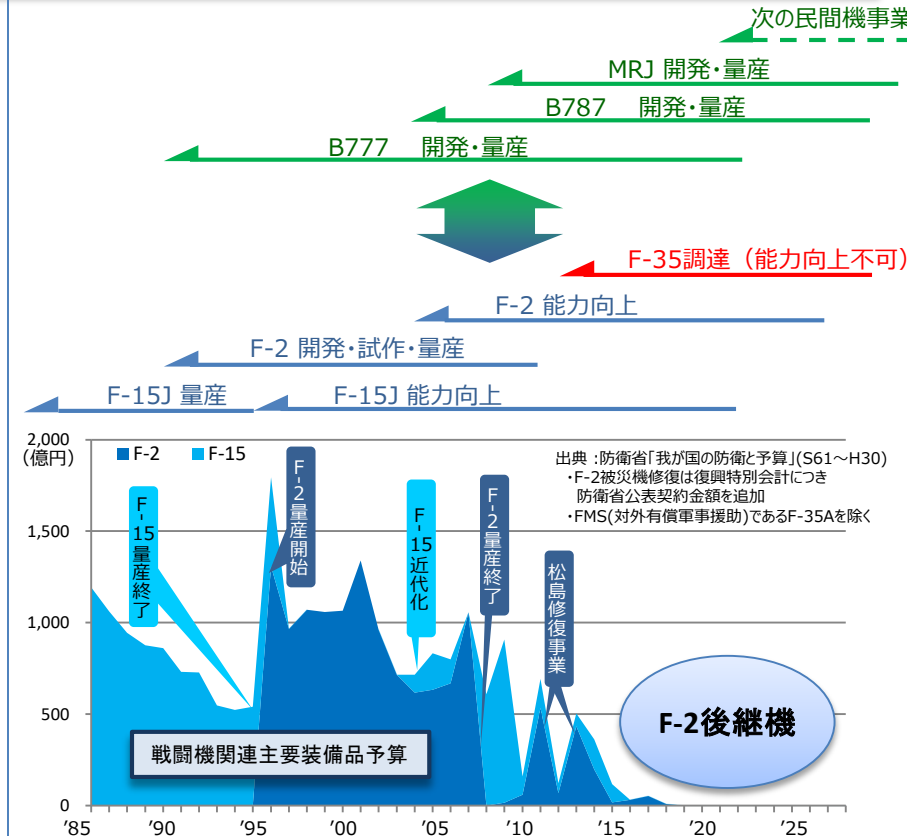


図2 航空機産業の推移と展望

わが国の航空機産業のあり方(その2) : 民間航空機全日本連携体制強化

